

館高東京同窓会会報

第 28 号 平成 26 年 2 月 発行

発刊に当たって

同窓会は人材の宝庫

会長 鈴木 昇

(昭和 35 年卒)



第 32 回定時総会において会長に選任されました。元より非力ですので、皆様のご指導ご協力を仰ぎながら会運営に当たっていきたくと思います。よろしくお願いたします。

「役員は役員による役員のための同窓会になりつつある」、唐突ですが、これは私の前職場の先輩で現在、某県某高校の東京同窓会会長を務める者が、会員の伸び悩みについて語った言葉です。これを聞き、私は一笑に付すことが出来ませんでした。当同窓会も同様の悩みを抱えているからです。

当同窓会は昭和 56 年にスタートし、先輩の方々のご尽力により、県内他校東京同窓会との交流を含め今日まで発展をとげてまいりましたが、近年の会員年齢構成を見ると所謂逆三角形になりつつあり、若い人たちの参加が鈍化しております。理由は、若者の考え方が変わった、あるいは、少子化により兄弟が少なく郷里に戻る方が増えたからだと言う説もありますが、しかし、当同窓会の存在そのものを知らない卒業生が多いと云うことも耳にしております。そこで、卒業式でこの会報を配布すると共に、昨年からインターネット上に「館林高校東京同窓会」のブログを設け、広く同窓生に存在を知らせる広報活動を開始しました。今年度からホームページ担当役員を置き更に充実を図ってまいります。

言うまでもなく、現会員の皆さんは色々な企業、あるいは政官、法曹、教育、医療、芸術等々、様々な分野に身を置く多士済々の方々に参加しております。まさしく人材の宝庫といえます。日頃接する機会が少ないであろうと思われるこれ等の方々と、同窓と云う共通項をもって何の垣根もなく、年齢を越えて接することが出来、互いに視野を広げ、輪を広げることが出来る、まさに故郷を同じにする者が味わえる特権といえます。

故郷の情報、消息、趣味の世界、あるいはグローバルな政治経済についての時事談義等々に花が咲き、時にビジネスの展開、時に趣味の世界への誘い等々に発展することもあります。

今年は、4 月前後に観桜会、8 月前後に納涼会、10 月に総会兼講演会、11 月前後にゴルフ会を開催する予定です。日程が決まり次第ホームページでお知らせいたします、ご覧戴き是非ご参加戴きたいと思ひます。

引き続き母校と連繫をとりながら足元をしっかりと固め、当同窓会を更に発展させていきたい。このことが延いては母校発展に貢献すると確信するものです。

第32回 定時総会

標記定時総会は、平成25年10月26日(土)にホテル グランドパレスで開催された。当日は大型台風が来襲したため開催が危ぶまれたが、未明から早朝に通過したため、事無く予定通り開催した。会員による審議事項がすべて終了した後、ご来賓を交えて講演会、懇親会が開催された。

1. 審議

大隈清道会長(昭和29年卒)による開会のあいさつの後、横山英和氏(昭和40年卒)を議長に選出し、あらかじめ招集通知書で案内されていた議題、①平成25年度事業・会計報告、監査結果報告、②役員改選、③平成26年度事業・経費計画、の審議を行った。

今年度は、役員改選の年であり、3期6年勤められた大隈清道会長から、「後進に道を譲りたい」との申し出があり、承諾され、新会長に鈴木昇氏(昭和35年卒)を推薦、満場一致で選出された。さらに鈴木昇会長の下に執行部を担う新たな役員及び体制(12頁に掲載)が承認され、審議は順調に進行し、出席会員諸氏の協力により全て承認可決された。

承認された平成26年度事業計画並びに平成26年度予算は下表の通り。

2. 講演会

講演会は、講師に昭和45年卒の小野田元伸氏(日本ピストンリング(株)技監、板倉町在住)を招き「世界の環境問題と自動車の行方」をテーマに講演を行った。

小野田氏は、日本ピストンリング株式会社入社以来、研究開発部門に従事し、多数の賞を受賞すると共に特許も取得、論文も多数執筆される等各方面で活躍している豊富な経験から、自動車を取り巻く環境と課題を鋭く解明すると同時に、次世代自動車として話題となっている各種自動車の開発動向を解り易く話され、自動車に対して今まで以上に興味を引き付ける内容であった。

3. 懇親会

懇親会は、栗田裕校長を始め本校同窓会各支部長及び他校同窓会関係者、会員約50名が参加した。

鈴木昇新会長の挨拶の後、栗田校長からこの1年間の生徒の活動状況や進学状況等学校の現況報告とさらには本校創立100周年に向かって寄付金のお願いがなされた。続いて鈴木敏男名誉会長(昭和23年卒)の音頭で乾杯が行われ、和やかな雰囲気の中で旧交を温め、新旧の校歌を斉唱して散会した。

4. 参加者

(イ) 来賓 15名 栗田裕館林高校校長、遠藤和昭同窓会副会長兼館林支部会長、同窓会各支部会長、他校首都圏同窓会関係者

(ロ) 会員 35名

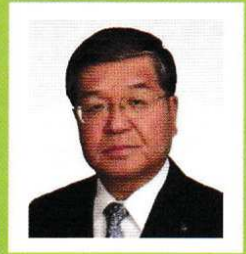
収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前期繰越金	247,069	総会運営費	320,000
年会費収入	450,000	懇親会運営	260,000
総会費収入	320,000	印刷代	300,000
懇親会収入	260,000	通信費	400,000
広告料収入	30,000	交流費	100,000
雑収入	250,031	雑費	100,000
合計	1,557,100	次期繰越金	77,100
		合計	1,557,100

事業計画

年月日	事項
平成25年10月26日	第32回定時総会
11月9日	本校同窓会総会参加
11月19日	東京同窓会第33回懇親ゴルフ会
12月	役員会
平成26年2月	役員会
2月	第28号会報発行
4月	第1回理事会・観桜懇親会
5月14日	本校同窓会ゴルフ会交流
6月	役員会
7月	第2回理事会・納涼懇親会
9月	役員会

※ 群馬県人会連合会、首都圏東毛3高会、本校同窓会各支部等々との交流は随時行う予定。

世界の環境問題と自動車の行方



昭和 45 年卒 小野田 元伸

1. はじめに

私たちの生活にはなくてはならないものとなっている自動車。クルマが現在のように普及したのは、扱いやすい液体燃料として、石油が比較的安い値段で手に入ったことが大きな要因であると考えられる。しかし、その石油の将来に不安が見え始めている。石油はエネルギー密度が高く、自動車に適した燃料であり、当分の間は主流と考えられるが、将来、その石油資源も有限であり枯渇が懸念されている。そしてエネルギーの側面だけでなく、地球環境からも新たな取り組みが必要である。

人類は貴重な石油を少しでも長く使い続けるため、パワートレインの効率向上やエコカー開発により車両の燃費改善を図る必要がある。

2. 薄皮1枚に託された人類の生存

空は無限に続く、と誰もが思っている。しかし、真っ直ぐに上に向かって歩けば、わずか数時間で空気はなくなる。地球の大きさを考えてみよう。地球の直径は約1万3,000 kmである。我々が生活している空気の厚さ、つまり大気圏の厚さは約10 kmである。13,000:10 の比率である。1m30 cmの地球を思い描いてみよう (図1参照)。

我々が暮らせる空気の層の厚さはわずか1mm だし、スペースシャトルは5cmの高さの「宇宙」を飛

★ 地球の客観的視点

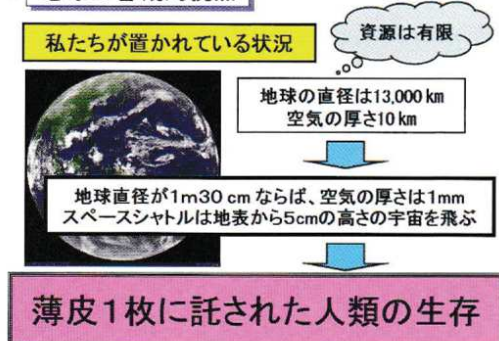


図1 地球の客観的視点

んでいる。これが私たちの地球を客観的に見た真の姿である。我々は薄皮1枚の空間で生を与えられ生涯を送る。人類の歴史も生物の歴史もすべてこの薄皮1枚の中で起こっていることだし、将来も薄皮の中で我々は過ごす。

この薄皮にいろいろなものを排出すれば、環境に深刻な影響を与えるのは当然である。我々は、化石資源を大切に使いながら、地球環境問題と共存していくことが大切である。

ここでは、世界の自動車保有台数、自動車を取り巻く環境と課題、次世代自動車の開発動向等について述べながら、『世界の環境問題と自動車の行方』について考えてみたい。

3. 世界の自動車保有、販売状況

世界の自動車保有台数の推移をみると、1970年に2.5億台であったが、自動車は増え続け、1990年代前半に6億台を突破し、2010年には10億2,000万台に到達した。人口1,000人当たり145台、7人に1台普及している。最大の自動車保有国はアメリカで、保有台数は2億4,000万台と群を抜いている。第2位は中国の1億台、伸び率も抜群。第3位は日本の7,925万台である。また自動車普及率は、アメリカ:77.3台/100人、日本:62.5台/100人である。中国の保有台数の伸び率が群を抜いているが、7.8台/100人とまだ低く、今後も増加の可能性がある(図2参照)。

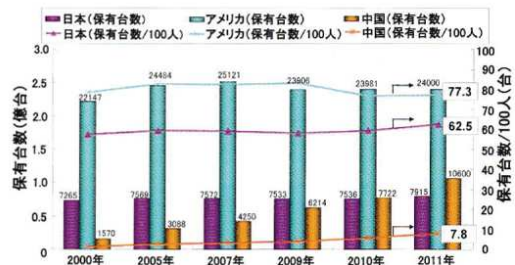


図2 自動車保有台数と人口当たり保有台数

4. 自動車を取り巻く環境と課題

クルマの基本性能「走る、曲がる、止まる」は今後も普遍であるが、究極の将来エネルギーが何になるか？未だ見えてこないのが現状である。

自動車を取り巻く環境対応と課題については、「エネルギー対応」、地球温暖化抑制のための「CO₂削減」と、もう一つの環境問題としての「大気汚染防止」の3つの課題がある。将来の燃料を語るとき、最も重要なことは、地球環境にやさしい「再生可能なエネルギー」への転換である。在来型石油はいずれ枯渇する。将来は化石エネルギーだけでは需要を満足することができなくなる。いかに長く使えるようにするか、いかに代替エネルギーを使えるようにするかが、当面の課題である。

(1) 石油はいつ枯渇するか？

石油はいつまで使えるだろうか。良く聞かれる言葉である。残存予測量（確認埋蔵量）は、1兆2,000億バレルである。例えば、富士山の体積（1,400万立方キロ）で計ると「8分の1杯」しかない。琵琶湖だと7杯分である。これを多いと思うか、少ないと思うか。このままの消費で推移すると約40年で枯渇してしまう。

(2) バイオ燃料の現状と地球環境問題の歯止め

アメリカの年間生産穀物を100%エタノールにして使っても、アメリカの全自動車の16%しか賅うことができない。

3Lのエタノール製造に必要なトウモロコシは7kgである。この7kgのトウモロコシなら牛肉1kg、豚肉1.75kg、鶏肉3.5kgをそれぞれ生産可能である。乗用車の25ガロン（約95L）のタンクをバイオエタノールで満タンにすると、一人が1年間に食べる穀物の量に匹敵する。世界には9億台のクルマを持てる裕福な？人と、飢えに直面している20億人の人がいる。

地球環境にやさしいと強調してバイオ燃料増産を奨励するあまり、一方では、地球環境破壊が深く進行している。南米アマゾンの熱帯雨林が毎年、東京

都の何倍もの広さで消失している。環境問題を考える時、一方で環境破壊、または削減緩和を実行しているが、バランスよく考えることが重要である。

(3) パワートレーンの開発の方向性

将来のパワートレーンについては、各社いろいろな意見があるが、ハイブリッド車（HV）やプラグインハイブリッド車（PHV）が有望である。

プラグインハイブリッド車（PHV）は、通常市街地などはモータで走れる（電気自動車）ようにし、中距離から長距離はHV車で走行する。蓄電池への充電はインフラなど（充電スタンド、充電待ち時間）の問題もあるので家庭用夜間電力を利用する便利さを期待している。

自動車の今後の動向については、既存技術の改良からハイブリッドに、最終的には究極のエコカーに進んでいくものと推定される。我々が取り組むべきテーマは代替燃料と効率化による燃費改善である。

5. 次世代自動車の開発動向

(1) 次世代自動車戦略

政府は、平成20年7月に閣議決定された「低炭素社会づくり行動計画」において、運輸部門からの二酸化炭素（CO₂）削減のため、図3の(1)～(6)を「次世代自動車」と定め、現在は50台に1台の割合の次世代自動車の販売台数に占める割合を、2020年までに20～50%に、2030年までに50～70%にする目標を掲げている。次世代自動車の普及は、低炭素社会の実現と共に、自動車産業の競争力の観点からも重要である。

(2) 電気自動車の課題

各種自動車の総合評価ではハイブリッド車（PHV）が有望である。電気自動車（EV）普及への課題は、図4の(1)～(4)の4点である。

電気自動車のコストの半分は、リチウムイオン電池である。リチウムは日本には資源がなく、現在はチリから約80%の輸入に頼っている。

リチウムの世界埋蔵量は、南米のポリビア、チリが圧倒的に多い。世界の埋蔵量の約半分520万トン



図3 低炭素社会づくり行動計画

	ガソリン	バイオ燃料	ハイブリッド (PHV)	電気自動車	燃料電池車
脱石油	×	△	○	○	○
CO ₂ 排出	×~△	△	△~○	◎	◎
航続距離	○	○	◎	×	×
インフラ	○	×~△	○	×	××
コスト	○	×	○	×~△	××

総合評価ではハイブリッド車（PHV）が有望
電気自動車（EV）普及への課題は、
(1)航続距離（電池性能が不足）、
(2)充電スタンドのインフラ整備（フル充電しても電気料金150～200円程度）、
(3)充電時間（急速充電でも30分→待ちきれない?）、
(4)コスト値段：半分がリチウムイオン電池

販売としての成立性が問題
超高性能蓄電池の開発がカギ

図4 各自動車（電気自動車）の課題

がボリビアのウユニ塩湖畔（南米に 81.5%が集中）に集中している。今後、日本が大切に付き合う国のひとつである。

製品 1 台当たりのリチウム使用量を見てみると、携帯電話：0.3 g、ノートパソコン：5.5 g、であるのに対して、電気自動車：5.7 kgで、自動車のリチウム電池が本格的に採用された時には桁外れのリチウムが必要になる。コストも含めてリチウムの安定供給が課題である。

(3) 将来モビリティの棲み分け、乗用車の走行距離

将来、各種エコカーが棲み分けることになる。図 5 によれば、EVは近距離用途、HV・PHVは乗用車全般、FCVは中長距離用途の棲み分けになる。そして乗用車を中心に大多数のニーズをカバーするのが、PHVを含めたHVである。

国土交通省の調査（図 6 参照）によると、日本における乗用車の 1 日当たりの走行距離は、調査車両の過半数が 20 km 以下であった。

PHVは、HVとEVを融合させたクルマである。プラグを介して家庭で充電できるバッテリーを使って、電気のみで走れる距離は 23.4 km（JC08 モード）である。電気エネルギーが無くなればHVとして走行するので、航続距離や充電設備の心配をする必要はない。

究極のエコカーと呼ばれる燃料電池車は、先日の東京モーターショーで試作車が展示されており、ある自動車メーカーが 2015 年から市場導入を目指しているが、本格普及にはコストや水素を供給するインフラの整備等の課題は多い。

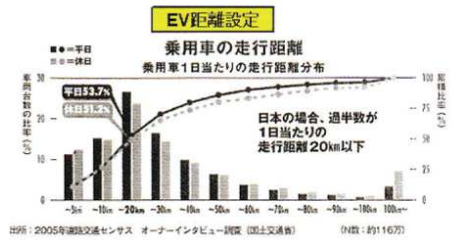
6. まとめ

今まで『世界の環境問題と自動車の行方』について述べてきたが、現時点ではコスト面・インフラ面から、PHVを含めてハイブリッドが次世代自動車の最有力候補である。

エネルギーの大量消費を前提とする社会から、持続可能な社会を実現することが重要である。新しい



図5 将来モビリティの棲み分けイメージ



日本の場合EV距離20kmの設定でユーザーの過半数をカバー

図6 乗用車の走行距離

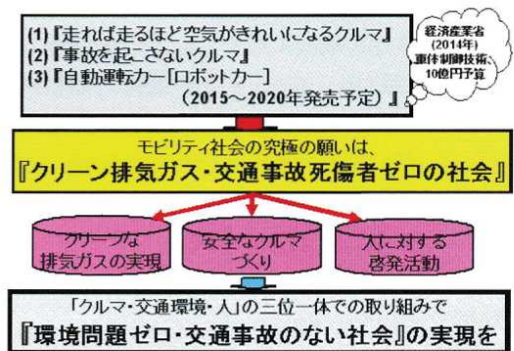


図7 中長期的なテーマ

時代のモビリティを具体的な形で、益々加速的に推進していくことが期待されている。そこに、『世界の環境問題と自動車の行方』が見えてくるように思える。

また、図7に示すような中長期的なテーマがある。夢物語のように思われるが、現在、「走れば走るほど空気がきれいになるクルマ」、「事故を起こさないクルマ」、「自動運転カー（ロボカー）」を目指した開発が行われている。

モビリティ社会の究極の願いとも言える、「交通事故死傷者ゼロの実現」に貢献することをテーマに、様々な可能性にチャレンジがなされている。

ただ、「交通事故のない社会」は、自動車そのものの進化、すなわち「安全なクルマづくり」だけで実現できるものではない。「交通環境の整備」、ならびに「人に対する啓発活動」への取り組みが不可欠である。このように、「クルマ・交通環境・人」の三位一体での取り組みを引き続き幅広く、強力に推進することで、「交通事故死傷者ゼロ実現」という大きな目標に向け、関係各位が鋭意開発を進めている。

おのだ もとのぶ：工学博士
 館林高校、東京都立大学卒業後、日本ピストンリング株式会社に入社。常勤監査役を経て現在は技監。
 群馬県邑楽郡板倉町（旧大箇野村）飯野 出身・在住

異文化を心ゆくまで楽しもう



大隈 清道

昭和 29 年卒

現役時代、海外出張が多く訪れた国の数は 50 数カ国に及びます。この数は商社マンの世界から見れば可愛いもので、彼等の中には訪歴 100 ヶ国を超える人も珍しくないようです。

しかし、私達の職種に課せられた出張では、多くの場合一ヶ国に長く留まり、その地勢、気候など自然条件から、経済、社会、保健、医療、教育、文化などなど、広い範囲の調査が求められます。したがって他の職種に比べれば出先の文化に触れる機会は多かったはずですが。にも拘らず、毎回帰って来ると「行先の文化をもっと味わっておきたかったなー!」という不満が残っていました。

そうした悔いの積重ねの中で「仕事の拘束が解けたら、各地の生活文化を味わうことだけを目的に世界を踏破してやろう!」という決意が何時しか固まってきたのです。

そして今から 10 数年前、勤めの縛りが解けたのを機にその実行に踏み切ったのでした。先ずは中央ヨーロッパ（旧東欧）を数回に分けて縦貫、続いて南イタリア周遊、スペインのパラドール歴訪、イギリス・コッツウォルズ回遊、スコッチ・ウイスキー・ディスタイラー歴訪など、かりそめや行きずりの旅でなく、納得のゆく企画による旅を続けてきました。

こんな私の旅を傍目に見た数人の友人から異口同音に「そんな金のかかる旅に付き合えるか!」という反応が出てきています。

しかし、実のところ私の旅、そんなに金をかけてはいないのです。これまでの旅の多くは旅行会社の企画商品を買ったものだからです。旅行商品を申し込むとき、1 日～3 日途中でグループを抜け出すことを了承させる。旅程やタイミングで了承されないこともあります。そんな場合その商品は諦め、という態度で当たってゆくと意外に受け入れられることが多いものです。これで行けば、勝手に行動するときの費用を別に用意すれば、安い旅行商品をベースに僅かなエクストラで固有の旅を作り上げ

ることが出来るのです。

仕事の出張では当たり前前にはやっていたことですが、全て旅程を自分で企画し、航空便ほか移動手段からホテルの予約まで、全部自分でする方法では、大変な仕事になる上、ポケットマネーでは付き合えない高価なたびになることは確かです。

しかし、安い旅行商品の部分を切り取ってそこだけ自分の企画を嵌め込む方法なら、そこそこの費用で、自分固有の旅を楽しむことが出来ます。そして、切り取った部分の企画だけなら苦痛というほどの仕事ではなく、むしろ抗加齢の脳トレとしても程良い負荷になります。ただし、この方法を楽しむには、日ごろの努力も必要です。

旅先の楽しみの対象といえば、景観、物産、料理、酒、美術・工芸、音楽・舞踊、祭り、催事などいろいろありますが、それらのひとつ以上に強い関心あるいは深い造詣をもたないと、この方法、やる気になれないものです。充実した旅を楽しむためには興味の対象を味わい盡すセンスと好奇心を日頃から磨いてゆく努力が不可欠です。

良く「旅慣れた人」という言葉を耳にします。この旅慣れた人を詳しく見ると 2 つのタイプがあることに気がきます。ひとつは「旅慣れるほどに旅を粗末にするようになるタイプ」。これは出張頻度の高いビジネスマンに多く、現役時代の私も実はこの例外ではありませんでした。ところが、最近気付いて驚いたのは、海外旅行が趣味で年に 4～5 回も飛び廻っている人の中に、意外にもこのタイプの人が多いことです。唯飛び歩くだけが生き甲斐なのか旅先の出会いに然したる感動も覚えず、帰って来たときはその経験の大半を忘れてる。これでは払った旅費はドブに捨てたも同然でしょう。

もうひとつは、いうまでもなく「旅慣れる程に旅を大切にようになるタイプ」で、文筆家、画家、音楽家など創作的な仕事に携わる人に多いタイプです。些細な体験にも感動を以て臨み記憶にとどめているこのタイプの人達には頭が下がります。

ところで、先ほど私がお薦めした安い旅行商品の一部をリバイスする方式など、真に旅行を大切にしている人からは蔑視されるのが落ちです。それは旅を大切に第一歩としての経済的妥協案でしかないのです。ただ安い旅企画であってもその一部を自分が企画しそこにエクストラを支払えば、その旅を大切にしたい気持ちが湧いてくるはず。お試しになってはいかがですか。

[千葉県船橋市在住 館林市(旧三野谷村)出身]

定年後を考える

篠木 昭夫

昭和 31 年卒



グループ展で職場の同僚と（右端が筆者）

小生、昭和 31 年卒の後期高齢者。前号に掲載された江森嘉昭君の同窓会報告を懐かしく読ませていただいた。写真から当時の面影が感じられ、一瞬時の経過を忘れさせてもいただいた。皆さん元気で本当に何よりと感じた次第。今後ともよろしく。

平成 9 年、定年が間近に迫ってきた頃、その後の人生をどう過ごすかいろいろ考えさせられたことを思い出す。特に、妻からいろいろ聞かれたことが直接のきっかけではあった。

結婚後の生活は、仕事第一、合間にゴルフなどというライフスタイルだったので、妻にしてみれば、定年後の生活が想像できなかつたのであろう。同時に自身もあまり考えていなかった。

振り返ってみると、通常のサラリーマンにとっては、いわゆる第二の人生ということで、生涯を左右する大問題である。「毎日ゴルフという訳にもいかないでしょう」とも妻からいわれ、わが身をその程度にしか理解していなかつたという事実にも自らも愕然とさせられた次第である。

結果的には、定年から今日まで働き詰めできたので、このことがそれほど大きな問題にならずに今日に至っているが、しかしその間、小生なりに考えそして具体化してきた。

因みに、小生の職歴は、昭和 31 年の高校卒業と同時に東京都庁に就職、併せて、東京都立大学（現首都大学東京）に昼夜開講制を利用して通学、平成 9 年の定年後は、（社）全国都市清掃会議、同 15 年より現在の（株）竹中工務店に勤務し、今日に至っている。

この間の仕事については十分満足している。「もはや戦後ではない」と、経済白書が記した昭和 31 年からほぼ右肩上がりの経済状況、最大の課題は、立ち遅れていた社会資本整備であった時代を過ごしてきた。住宅や清掃工場の建設、都市公害対策の

推進、臨海部開発、東京のシンボルを目指した東京都庁舎の建設等々、当時の都政の重要課題の多くに取り組んできた。大変だったが充実もしていた。

定年後の仕事は、それまでの仕事より精神的にも肉体的にも負担が大きくなり、時間的にも若干の余裕のある状況だったので、少しずつ「定年後」を具体化し、今日に至っている。

具体的には、

1. 中高校生の時の頃好きだった絵画（水彩画、油絵）をはじめること

当時、油彩道具は高根の花だった

2. 田舎（明和町）に残された旧宅と田畑を管理し、農作業を楽しむこと
3. スケッチを主体とした旅行をすること
4. ゴルフは月 2～3 回程度楽しむこと

以上の 4 点を軸に仕事以外の時間を用いている。

細君は、結果として「亭主元気で留守がいい」を実践することになったので大いに喜んでいる。特に自ら楽しんでいる書の世界に没頭する時間のとれたことに安堵しているようである。

定年後の生きざまを考えるにあたっては、

1. 出来るだけ好きな事を中心にする
2. ストレスの残るようなことは避ける
3. しかし、脳細胞の適度な刺激も重視すること

4. 世間とも隔絶しないこと

などを意識したように思う。

幸い健康にも仕事にも今日まで恵まれてきたので、前期高齢時代を有意義に過ごせたように思っているが、さてこれからは、後期高齢者、仕事なくなる。いかに過ごすかである。今までの延長戦上で行くことになるが、体力とのバランス維持に軸足を移すことが必要か。先輩諸氏のご指導を乞う次第である。 [東京都文京区在住 明和町(旧梅島村)出身]

滞米 50 年を思う



谷田部 勝

昭和 38 年卒

「谷田部、お前は上武の後を継いでアメリカへ行くんだぞ！」と、久保田利重先生から半ば命令調で言い渡されたのが昭和 37 年 (1962 年) の夏だった。高校 3 年生となり進学のことを真剣に考えなくては・・・と思っていた矢先だった事もあり、私はあたかも「米国留学」が自分に与えられた運命のように、割と素直にそのアイデアを受け入れることができた。

その翌年 1 月、久保田先生は全日本高校選抜レスリング選手団団長として、オレゴン州内を親善試合で転戦して歩いた。館林高校で英語とは関係ない地理の教鞭を執られていた久保田先生は、殆どのアメリカ人には理解不可能なジャパニーズ・イングリッシュで、それも相当“ブローケン”であるにも拘らず、気持ちで自分の意思を相手にぶつけ、理解せしめる能力を発揮するすごい人だった。そして、先生が米国遠征から帰国した時には、ミスター・シューベルト・・・というポートランド市内・グラント高校の理科の先生でレスリングコーチご夫妻を「谷田部留学の際のスポンサー兼ホストファミリー・・・」として受け入れの合意を取り付けてくれていた。

スポンサーとホストファミリーは決まったものの、何処の大学へ留学するのかまでは決まっていなかった事から館高卒業をひかえ、浪人・・・という事も考えたのだが、上武先輩が館林高校から早稲田大学へ進学、2 年生の時に米国留学 (オクラホマ州立大学) という前例があったのと、早稲田大学からお誘いを受けていた事から、早大生になる事を決意、上京した。

早稲田では 1 年生ながら正選手としてリーグ戦等に出場していた。そうこうしている内にアメリカのシューベルトさんから手紙が届いた。それはポートランド州立大学で受け入れるという報せだった。

羽田国際空港からアメリカに飛び立ったのは昭和 39 年 (1964 年) 1 月 3 日、満 19 歳の誕生日の 2 週間後だった。

今日は 2014 年 1 月 3 日、今、こうしてアメリカはオレゴン州ポートランド市内の自宅で新春を迎えた私にとり、それは丁度 50 年前の出来事であった。

日本を発つ前に恩師久保田先生から 1 枚の色紙を手渡された。「アメリカに永住する事、そして後輩に道を拓いてやる事。アメリカの女性は積極的だから、女性には特に注意する事。頑張れ！」と書かれていた。

高校時代、英語が苦手だった私だが、実兄のように尊敬していた森田武雄先輩が良く語っておられた戦略“背水の陣”を敷き、ただがむしやりに、同時に確実に一歩一歩前進を心掛け歩み続けた結果、1969 年 6 月にポートランド州立大学から卒業証書を授与された。両親もこの時初めて飛行機に乗り馳せ参じてくれた。

レスリングの面では、大学から授業料免除の“特待生”扱いを受けた事もあり、また、偉大な上武洋次郎 (後に小幡洋次郎) 先輩の後を継ぐ身でもあった事から「全力を尽くす」以外、頭に無かった。

結果的に、3 年連続全米学生チャンピオンを達成し、二度のオリンピックで日本の為に金メダルを勝ち取った上武先輩の足元には及ばなかったが、1967 年、1968 年と 2 年連続全米学生選手権大会 (カレッジの部) で優勝、全米エリートレスラーの仲間入りを果たすと同時にアメリカのオリンピック候補選手にも抜擢された (日本国籍の私にはアメリカを代表する権利は無かったが・・・)。

久保田先生から頂戴した色紙のメッセージを「十分果たしたと言えるかどうか」は別として、先ず当地に永住 (2010 年に米国市民権を取得、米国民となる)、そして館高から小島良夫君、笠原利広君その他、数名の後輩がポートランド州立大学へ留学、卒業しているので、ある程度の結果を出す事は出来たと思う。ただ、三つ目に関しては、アメリカ人妻、アリスと結婚して今年が 45 年目、久保田先生はどう審判なされるか? 興味深いところだ。

50 年目を迎えた在米生活を振り返ると「有由有縁」という諺があるが、本当に多数の日・米人と“良い”出会いを持つ事が出来た事を幸運に思う。子供 3 人、孫 7 人に恵まれ、世界で最も人が住むのに適した 5 大都市の一つポートランド (英国紙、Guardian) で我が人生創りを継続できる事は大変有難く、50 年前にその方向付けを与えて下さった久保田先生の先見性に感謝の日々である。

[米国オレゴン州ポートランド市在住 旧多々良村出身]

みちのく郷土食「寒鰯汁」

篠崎 睦男

昭和40年卒



縁あって十数年前に6年ほど山形・庄内地方に勤務した。みちのくの冬はやはり厳しい。上州の「空っ風」に慣れた身でも、しんと体の芯まで浸み込む寒さである。気温だけでいえば、盛岡や山形・米沢など内陸の方が冷え込む。しかし、秋田や鶴岡・酒田など沿岸部は風が強い分だけ体感温度が低くなる。時折、雪が横からあるいは下から吹き上げる。TVドラマの名作「おしん」の故郷の最上川流域では、「清川だし」と呼ばれる強い風が吹き、町起こしで風力発電事業に先鞭をつけている。

最上川 逆白波の 立つまでに

ふぶく夕べと なりにけるかも

茂吉

庄内地方は文化度がけっこう高い。北前船の交易で京文化がさまざまな形で取り入れられている。餅は方形ではなく丸餅であるし、本間家をはじめとする名家には由緒ある雛人形が受け継がれている。

鶴岡は、藤沢周平の郷里であり、「たそがれ清兵衛」「蟬しぐれ」「武士の一分」など映画・TVドラマのロケ地になっている。下級武士や庶民の哀愴が漂う

行間に、現代社会の一面まで映し出されている感を受ける。アカデミー賞受賞作品「おくりびと」や娯楽映画「つりばか日記」シリーズも、酒田や鶴岡で収録されている場面が多い。

そんな庄内の冬の鍋は寒鰯（どんがら）汁である。マダラの身だけでなく、頭から骨・内臓まですべてを食べつくす。タラは高タンパクで低カロリー、ビタミンDを多く含む食材である。淡白な食感で他のどんな食材とも相性がよい。豆腐・大根・ネギ・しらたき・岩のりなどがよく合う。

タラの身は意外と大きい。重さ7～10kgにもなるという。「たらふく食べる」とは、タラのような大きな腹になるまで食べることで「鰯腹」とも書かれる。でも、語源は別で「十分になる」意の「足らふ」に副詞「く」が付いたものと言われる。

また、すべてを食べつくすことから、津軽地方では「じゃっば（雑把）汁」と呼ぶ。内臓の中でもコクと旨みがあるのが肝臓（脂ワタ）と白子である。でも、白子（菊ワタ）は生のまま、もみじおろしや九条ネギ・カボスを添え、ポン酢醤油で食べるのが絶品である。凍てつく寒さの中でも、仲間とこの鍋を囲むときは、こころ温まるひとときである。

平成も早や四半世紀が過ぎ、跛行性はあるものの、経済は概して好調であると言われる。

最上川 黒びかりして 海に入る

秋の一日(ひとひ)と なりにけるかも

茂吉

この景気動向が、ぜひ長続きするものであってほしいと願っている。

[横浜市南区在住 館林市(旧多々良村高根町)出身]

寒鰯汁の作り方 (一例)

- (1) 煮立ったお湯に、肝臓(脂ワタ)・大根を入れる。
- (2) 脂ワタが煮えたら、タラの切り身・アラ(頭・中骨等)を入れ、暫く煮る。出たアクは捨てる。
- (3) 煮えたら、タラの白子を入れ、ひと煮立ちさせ、味噌・酒・調味料で味付けをする。
- (4) さいの日切りした豆腐・しらたきを加え、ひと煮立ちさせ、斜め切りした長ネギを加える。
- (5) 下ろす直前に、岩のり・三つ葉などを加える。

[材料] (4~5人前)

・マダラの切り身	半身
(頭、脂ワタ、中骨など付いたもの)	
・豆腐	大1丁
・大根(銀杏切り)	1/2本
・長ネギ(斜め切り)	2~3本
・しらたき(コンニャク)	お好み
・岩のり、三つ葉	お好み
・味噌、酒、調味料	適量

同窓会は“楽しい会”です



大輪 浩幸
平成7年卒

大学進学の為上京し、そのまま就職して東京での生活が15年を過ぎた頃、館高東京同窓会というものがあるということを知り、入会させていただきました。

初めて参加させて頂いた時は、観桜会の時だったと思いますが、その時とても驚き、そして緊張した事を覚えています。

それまで私が思い描いていた同窓会というのは、同学年の仲間や、先輩・後輩が和気藹々として語り合う場だったのですが、実際の館高東京同窓会は全く違いました。周りを見回すと、後輩は勿論の事、同学年や世代的に話が合いそうな先輩もいない。どう見てもひと回りやふた回り、それ以上離れた先輩方ばかりでした。場違いなところに来てしまった。それが最初の感想でした。

場違いな参加に戸惑って、次から参加するのはどうしようかなと躊躇っている時に、突然、館高東京同窓会役員会のお知らせが来ました。どうやら知らない間に役員になっていたようです。しかも副会長。気持ちが宙ぶらりんの間に事が進んでしまい、何がなんだかわからなくなっていました。とりあえず何回か参加してみて考えようと思いつきの会にも参加することとなりました。

参加する度に先輩方は優しく接してくれます。そして、色々為になる話も聞け、次第に館高東京同窓会への参加が義務感から楽しみに変わっていききました。

現在、私は東京の会社でサラリーマン生活ですが、この楽しみは仕事にも活かしています。

会社には定年間近の上司から入社間もない後輩ま

で色々な人がいますが、そこには多かれ少なかれ上下関係が生じます。仕事上は上司とコミュニケーションが図れますが、それを深いものにしていくのは中々大変なものです。

これは取引先の人との関係も一緒です。同窓会は上下関係や利害関係が無く、母校の繋がりという同じ立場の人の集まりだからこそ、世代を超えた人との接し方が出来ます。こんな経験は今まで全く無かった事ですから、仕事上のコミュニケーションのプラスアルファとして、とても生きています。

不安な初参加から、今日、館高東京同窓会にどっぷり浸かってしまっている私ですが、この会に一つの不安があります。それは若手が極端に少ない事です。少しずつ若い世代も増えつつあるものの、まだまだ足りません。私の同世代は数人しかお会いしたことがありません。折角の伝統ある素晴らしい会が今後どうなっていくかということを考えると、今のところ未来は明るいとは言えません。もっと若手が増えて欲しい。切実なる願いです。

最後に、各世代の方々にご案内です。

<10代の皆様へ>

館高卒業後、上京されたら是非東京同窓会へ。

<20代の皆様へ>

大学卒業後、慣れない社会人生活は大変です。東京同窓会の先輩方は豊富な経験でサポートしてくれるはず。是非東京同窓会へ。

<30代の皆様へ>

私と同世代お待ちしております。

<40代の皆様へ>

仕事も責任が重くなり、家庭も大変な時期です。東京同窓会で横の繋がりを広げませんか。

<50代の皆様へ>

現役の豊富な経験を東京同窓会の後輩方が必要としています。是非ご参加ください。

<60代の皆様へ>

定年後、新たな人脈作りにチャレンジしてみませんか。

<70代以上の皆様へ>

同世代以上の方々が沢山いらっしゃいます。お気軽にご参加ください。

皆さんでもっと楽しい会にしていきたいと思います。

[東京都荒川区在住 邑楽町(旧中野村)出身]

観桜懇親会のお知らせ

館高東京同窓会は会員諸氏との懇親・交流を目的に下記の催しを行います。お気軽に御参加下さい。

日時 平成26年3月29日(土) 午前11時～午後2時

会場 ホテル グランドパレス(1F レストラン カトレア)

東京都千代田区飯田橋1-1-1 TEL 03-3264-2401

交通 東京メトロ東西線、都営地下鉄新宿線・九段下駅下車(3分) JR 総武線飯田橋駅下車

会費 4,000円(当日受付)

申込先 館高東京同窓会事務局 〒333-0853 川口市芝園町2-1-211 横山 英和方

TEL/FAX 048-262-0067 Eメール yokoyama-ht@brown.plala.or.jp

申込締切 平成26年3月20日(木)

平成 26 年度 (平成 25 年 10 月～平成 26 年 9 月) 会費納入者 (敬称略)

(平成 25 年 12 月 31 日現在 卒年、氏名 (居住地) 昭 9～昭 24 卒迄は五年制旧制中学校、④は四年卒)

◆昭 9 卒: 新井貞雄 (横浜市保土ヶ谷区) ◆昭 13 卒: 新里武雄 (豊島区) ◆昭 18 卒: 宮沢春信 (横浜市栄区) ◆昭 19 卒: 引間信夫 (多摩市) ◆昭 20④卒: 茅野和司 (藤沢市)、山岸忠尚 (豊島区) ◆昭 21 卒: 恩田進吾 (杉並区)、小沼弘 (町田市) ◆昭 23 卒: 今西庸也 (練馬区)、柿沼七郎 (江戸川区)、鈴木敏男 (足立区)、田口正明 (国立市) 角田晋一 (蔵市)、松本仁之 (流山市) ◆昭 23④卒: 岩崎三樹 (大田区)、奈良高 (世田谷区)、吉田豪利 (杉並区) ◆昭 24 卒: 大塚荘治 (目黒区)、荻野栄蔵 (日野市)、小島将男 (相模原市南区) ◆昭 25 卒: 栗原誠一 (横浜市戸塚区)、栗原豊 (町田市)、小暮堅三 (江戸川区)、高澤俊夫 (柏市)、曾根吉道 (墨田区)、田部井忠三 (小平市)、中村茂八郎 (大田区)、宮崎浩 (中野区) ◆昭 26 卒: 安西弘行 (茨城県阿見町)、遠藤侑男 (日高市)、亀井栄三郎 (神奈川県二宮町)、小林淳一 (江東区) ◆昭 27 卒: 荒井昭 (練馬区)、石橋松雄 (さいたま市中央区)、太田恵一 (中央区)、金子恭 (越谷市)、神谷武一郎 (久喜市)、木本守也 (大田区)、車崎光知 (江戸川区)、齋藤又一郎 (埼玉県杉戸町)、須藤仁治 (世田谷区)、永井清司 (松戸市)、葭葉昌司 (松戸市) ◆昭 28 卒: 荒川磯雄 (小平市)、石鳥通也 (さいたま市西区)、岡戸幸夫 (江戸川区)、荻

野秀文 (さいたま市岩槻区)、小西正 (鎌倉市)、桜井達 (練馬区)、筑比地繁 (大田区)、蓮見重義 (いすみ市)、長谷川操 (松戸市)、吉永勇 (多摩市)、六本木清 (立川市) ◆昭 29 卒: 有輪六郎 (世田谷区)、岩崎充利 (練馬区)、内田耕也 (日野市)、大隈清道 (船橋市)、亀田敏夫 (柏市)、石井利水 (さいたま市緑区)、小林圭二 (昭島市)、関口昌秀 (世田谷区)、寺内隆道 (小平市)、宮田秀夫 (越谷市) ◆昭 30 卒: 内田信也 (練馬区)、江原二三男 (世田谷区)、大澤啓三 (市川市)、渋井恒夫 (富士見市)、高橋重夫 (埼玉県宮代町)、水野雅昭 (神奈川県湯河原町) ◆昭 31 卒: 小倉浩育 (館林市)、大野薫 (越谷市)、岡村昌二 (川崎市多摩区)、篠木昭夫 (文京区)、西田一俊 (さいたま市浦和区)、増尾和彦 (福生市)、吉澤康弘 (さいたま市西区) ◆昭 32 卒: 加藤利雄 (世田谷区)、大橋弘次 (草加市) ◆昭 33 卒: 鈴木勝也 (台東区)、田口栄治 (荒川区)、田中富士雄 (町田市)、長谷川馨 (大田区) ◆昭 34 卒: 富田好弘 (春日部市)、延山錦吾 (川崎市)、渡邊紀久次 (埼玉県宮代町) ◆昭 35 卒: 天谷政幸 (龍ヶ崎市)、荒井昭彦 (松戸市)、太田勝利 (さいたま市西区)、大塚秀吉 (柏市)、神谷宗作 (越谷市)、鈴木昇 (東久留米市)、谷田部和之 (越谷市)、上村重夫 (横浜市旭区)、◆昭 36 卒: 相

澤建志 (町田市)、江森勇 (さいたま市北区)、大山稔 (小平市)、篠原稔 (草加市)、落合克昭 (久喜市)、橋本昌博 (川崎市)、増尾哲雄 (多摩市) ◆昭 37 卒: 小林淳二 (豊島区)、正田健一 (新宿区)、藤井基且 (さいたま市南区)、高橋幹男 (さいたま市見沼区) ◆昭 38 卒: 大槻昇 (武蔵野市)、栗原勝雄 (府中市) ◆昭 39 卒: 浜田邦夫 (豊島区)、橋本邦雄 (大田区) ◆昭 40 卒: 金子和司 (荒川区)、川島不二夫 (松戸市)、篠崎睦男 (横浜市南区)、小山和夫 (逗子市)、橋本康司 (松戸市)、横山英和 (川口市)、渡辺智三 (船橋市) ◆昭 41 卒: 飯田進 (千葉市緑区)、麦倉和夫 (足立区) ◆昭 42 卒: 大野操 (草加市) ◆昭 43 卒: 小倉巧 (昭島市)、内田茂 (久喜市) ◆昭 45 卒: 奥澤康文 (さいたま市大宮区)、村上信一 (千葉市中央区)、原四郎 (板橋区) ◆昭 46 卒: 杉田利雄 (新宿区) ◆昭 49 卒: 斎藤文雄 (神奈川県開成町) ◆昭 51 卒: 河村博 (世田谷区) ◆昭 54 卒: 小林功一 (足立区)、中野栄一 (新宿区) ◆昭 56 卒: 三関春雄 (横浜市鶴見区) ◆昭 57 卒: 神谷哲也 (川崎市宮前区) ◆昭 61 卒: 深町司 (横浜市金沢区) ◆平 5 卒: 五十嵐圭 (浦安市) ◆平 7 卒: 大輪浩幸 (荒川区)

年会費納入のお願い.....

平成 26 年度 (平成 25 年 10 月～平成 26 年 9 月) の年会費 3,000 円を未納の方は、①氏名、②卒業年、③住所・TEL、を明記していただき、下記口座に送金をお願いいたします。

・郵便振替 加入者名 館高東京同窓会

口座番号 00160-8-773981

鈴木名誉会長

群馬県功労賞を受賞

鈴木敏男名誉会長（昭和23年卒）は、群馬県が創設した第1回県外在住功労者表彰を受賞、平成25年10月24日、群馬県東京事務所において大澤正明知事より手渡されました。

この表彰は、群馬県外に住む県内出身者や群馬県ゆかりの個人、団体を対象に、群馬県のイメージアップや経済活性化に貢献した功績をたたえることを目的に創設したもので、鈴木名誉会長は、上毛倶楽部副理事長、群馬県人会連合会会長代理として長年活躍してきたことが認められたものです。



ゴルフ部会

ゴルフ部会（中村茂八郎部会長）は、第33回親睦コンペを平成25年11月19日千葉県野田市・紫カントリー倶楽部あやめ36(WESTコース)を会場に、新ペリアルールを適用して開催した。

当初は20名を超す参加予定者が、寄る年波のためか、膝が痛い、家人の世話で1日家を留守に出来ない等々によって、参加者は16名に落ち着いた。

昨年までとは異なり、今回は初めて挑戦することになったWESTコースが舞台、これ以上ない秋晴のもとプレイを展開した。平均年齢70歳代後半、後期高齢者の目立つ参加者は、昔は腕に覚えのあったとクラブを振り回すもののボールは思うように飛ばず、ボールよりも口数の方がはるかに多く飛び交った18ホールだった。

優勝は谷田部和之氏（35年卒）、準優勝は小林啓八氏（28年卒）、第3位篠原稔氏（36年卒）となった。

プレイ後の19番ホールは、限られた時間の中、終わったばかりのプレイ談義や近況報告など盛りだくさんの話題に花が咲き楽しい時を過ごし、再会を約して散会した。



平成26年度・27年度（2013.10～2015.09）

役員と職務

名誉会長 鈴木 敏男（昭和23年卒）
 顧問 岩崎 三樹（昭和23年卒）
 " 中村 茂八郎（昭和25年卒）
 " 大隈 清道（昭和29年卒）

会長 鈴木 昇（昭和35年卒）
 副会長・事務局長 横山 英和（昭和40年卒）
 副会長 谷田部 和之（昭和35年卒）
 " 相澤 建志（昭和36年卒）
 " 藤井 基且（昭和37年卒）
 " 渡辺 智三（昭和40年卒）
 " 篠崎 睦男（昭和40年卒）
 " 奥澤 康文（昭和45年卒）
 " 河村 博（昭和51年卒）
 " 小林 功一（昭和54年卒）
 " 中野 栄一（昭和54年卒）
 " 深町 司（昭和61年卒）
 " 大輪 浩幸（平成07年卒）
 監査 内田 信也（昭和30年卒）
 " 長谷川 馨（昭和33年卒）

※ 下記の副会長は会活動のすべてにおいて、会長を補佐し、会の運営、活性化に努めるとともに、以下の特命事項を担当する。

- 事務局長補佐兼会員名簿管理
渡辺 智三
- 財務・会計
相澤 建志、河村 博、小林 功一
- 会報編集
谷田部 和之、藤井 基且、篠崎 睦男
- HP立ち上げ・管理
奥澤 康文、中野 栄一、深町 司、大輪 浩幸

編集後記

第28号を無事にお手元にお届けできました。

今号では、昨秋の定時総会時に講演いただいた小野田元伸氏に、日本が直面している環境問題、最大の産業である自動車の近未来について纏めていただきました。永年自動車産業の一角で研究に取り組んでこられました小野田氏の話に会場では活発な質問が寄せられ会員の関心の高さを実感したものです。

本会は東毛3高会、本校同窓会各支部との交流に様々に取り組んでいます。3校交流会での交歓や太田高校金山京浜同窓会政経セミナー、ゴルフ会、桐生高校京浜同窓会新会員歓迎会、本校同窓会邑楽町支部の春秋のグラウンド・ゴルフ大会に参加する等々です。本会の活動に会員諸氏の積極的な参加を期待しています。

米国在住の同窓生から、若干19歳で渡米した当時の様子について投稿いただいた。日本で最初の英語教師だった「ラナウド・マクドナルド」の功績を伝える友の会会長を務めるなど、滞米50年、今年数回、日米を往来して様々な分野で民間交流に頑張っています。

今号では新しい試みとして、会費納入者のリストを一括掲載しました。この試みにはご意見もあることでしょう。ご意見お待ちしております。（Y）

発行人 鈴木 昇 〒203-10032 東京都東久留米市前沢三丁目二二六